

# 鴨川シーワールド 獣医師 勝俣悦子さん (65)

鴨川市の水族館、鴨川シーワールドで40年以上、イルカやシャチなど海獣類の治療や体調管理を担当している。まさに「海の動物のお母さん」だ。

「昔からおまじことあまり面白いと思っただけで、実家でも犬やリスを飼っていました」

若い頃から動物が大好きで「動物と一緒に生活できる仕事がしたい」と思い、獣医師を志したという。当時飼っていた犬を動物病院に連れて行ったときに見た、獣医さんの姿に憧れたのもこの道を目指した理由の一つだ。

当時の獣医学部の男女比はおおむね9対1。大学では馬術部に所属したが、いずれも男性中心の世界だった。しかし、「男の人に負けないように」とは思わず、女子が得意なことを積極的にやっていた。男女のギャップがとて面白くて」とスカートのまま乗馬するなど伸び伸びと大学生活を送り、卒業まで馬の世話に明け暮れた。

大学3年生のときにイルカが描かれたポスターにひかれて鴨川シーワールドの飼育実習に参加。当時、イルカは「頭が良くて超能力を持っている未知の生物」として注目を集めており、「獣医師になるならイルカの獣医師になりたい」と思っていたという。

同水族館が「イルカを魚ではなく哺乳類として獣医学的な視点でしっかり飼育して欲しい」との思想から獣医師

## 日本初 イルカの人工授精

を募集していたことが実習への参加を決めた最大の理由だったと振り返る。

だが、「イルカを診る自信が持たなくて」、水族館側に断りの手紙を書いて大学卒業後は「幼少からやっていた」水泳のコーチの仕事で1年間ほど務めた。大学卒業から約1年後に鴨川シーワールドに白イルカの「ペルーガ」を見に行つたときに、顔見知りの職員から「まだ席が空いていますよ」と声をかけられたことが同水族館に就職する決め手となった。

入社後3年間はペルーガのショーの担当を務め、その後、獣医師兼飼育員としてイルカやアシカ、ペンギンなどを



### Face ちば 人物記

の体調管理を担当するように。平成15年には研究者らの協力を得て、当時難しいといわれていたイルカの人工授精を日本で初めて成功させた。

人工授精を成功させたのはそれまでに9回の出産経験を持つバンドウイルカの「スリム」。スリムは当時の長期日本飼育記録となる推定48歳まで生き抜いた。

「スリムがいたからあの研究は成功した」とイルカの「ペテランお母さん」に感謝しつつ、「飼育」は妊娠出産して終わりではなく、子育てしやすい環境を整えるのが「一番重要」と訴える。

「動物たちといると、種類によって、子孫を絶やさないように工夫した出産や子育てのいろいろな違いを間近で見せてくれる。それがこの仕事の一番のご褒美です」

鴨川シーワールドの海の動物たちを守る「お母さん」はそう言って、屈託のない笑顔を見せた。

(白杉有紗、写真も)

〈かつまた・えつこ〉昭和28年、東京都出身。日本獣医畜産大(現日本獣医生命科学大)獣医学部卒業後、52年に鴨川シーワールドに入社。ペルーガのショーの担当を経て、海獣類の健康管理や治療を担当。平成15年にはイルカの人工授精に日本で初めて成功し、16年に「日本動物園水族館協会」の古賀賞を受賞した。